

薬離学

責任者・コーディネーター	神経科学分野 駒野 宏人 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学分野、衛生化学分野、薬剤治療学分野		
対象学年	4, 5	区分・時間数	講義 7.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

医薬品は、標的とする疾病の治療や症状を緩和することに貢献する一方、副作用が問題となることが多い。したがって、最終的に医薬品を離れ健康を維持するセルフメディケーションの実践とその指導は、国民の健康増進にとってきわめて有益と思われる。本講義では、健康維持するためのセルフメディケーションの一つとして薬を使わない方法を学ぶことを目的とする。そのため、食生活を含む生活習慣を取り上げ、科学的あるいは疫学的に健康に影響を与えているものを整理し、薬を使わないセルフメディケーションの方法を考察する。また、特に高齢者で認められているポリファーマシーによる薬物有害事象を学び、それを避けるためのガイドラインを学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

健康維持するためのセルフメディケーションの一つとして薬を使わない方法を学ぶことにより、患者・生活者の健康維持、健康増進に貢献できる能力を身につける。（ディプロマ・ポリシー：4,9）

・到達目標（SBO）

- 1.疾患予防となる運動、ストレッチなどの身体活動や生活習慣を作用機構とともに概説できる。（☆）(109,496)
- 2.健康に良い食品、健康を害する食品について作用機構とともに概説できる。（☆）(510,511,515)
- 3.疫学的に疾患予防となることが示されている生活習慣について、理由とともに概説できる。（☆）(502,503)
- 4.ポリファーマシーによる薬物有害事象の実例を概説できる。（☆）
- 5.プラセボ効果およびノセボ効果について、その分子機構とともに概説できる。（☆）

・講義日程

（矢）東 207 2-E 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/14	火	5	神経科学分野	駒野 宏人 教授	薬を使わないセルフメディケーションについての概要、及び生体が本来持っている健康に益する生体内物質を知り、それを産生する方法について学ぶ。 1. 疾患予防となる運動、ストレッチなどの身体活動や生活習慣を作用機構とともに概説できる。

					<p>事後学習：内容を振り返って、学んだことを、自分の健康や他人への健康指導にどう生かしていくかを考える。</p> <p>【グループワーク】【双方向授業】 【対話・議論型授業】</p>
4/21	火	5	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>プラセボ効果、ノセボ効果について、その分子機構を学び、それを背景に減薬の方法を考える。</p> <p>1. プラセボ効果およびノセボ効果について、その分子機構とともに概説できる。</p> <p>事後学習：内容を振り返って、学んだことを、薬剤師として服薬指導等にどう生かしていくかを考える。</p> <p>【グループワーク】【双方向授業】 【対話・議論型授業】</p>
4/28	火	5	衛生化学分野	杉山 晶規 准教授	<p>食品がもつ機能性や健康に与える影響について基礎的知識を整理し、薬を使わないセルフメディケーションにどう役立てるか、考察する。</p> <p>1. 健康に良い食品、健康を害する食品について作用機構とともに概説できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (google フォーム)】</p> <p>事後学習：内容を振り返って、学んだことを、自分の健康や他人への健康指導にどう生かしていくかを考える。</p>
5/12	火	5	帝京平成大学	富田 隆 教授	<p>高齢者におけるポリファーマシーによる薬物有害事象の実例を知り、それを避けるためのガイドラインを学ぶ。</p> <p>1. ポリファーマシーによる薬物有害事象の実例を概説できる。</p> <p>事後学習：内容を振り返って、学んだことを、薬剤師として服薬指導等にどう生かしていくかを考える。</p>
5/19	火	5	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>疫学からみた疾病予防</p> <p>1. 疫学からみた疾病予防となる生活習慣を学び、薬を使わないセルフメディケーションに役立つ生活習慣について考察する。</p> <p>2. 疫学的に疾患予防となることが示されている生活習慣について、理由とともに概説できる。</p> <p>事後学習：内容を振り返って、学んだことを、自分の健康や他人への健康指導にどう生かしていくかを考える。</p>

・ 成績評価方法

演習態度（90%）とレポート（10%）で評価する。

・ 特記事項・その他

講義で配布した資料は、内容の確認を必ずすること。駒野担当の講義では、グループワーク、二人ペアでのワークを実施するので積極的にワークに参加すること(2コマ)。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	コンピューターで作成した講義資料を講義室のプロジェクターで映写し、講義に使用する。